

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

果樹カメムシ類の発生状況（技術情報第3号）について（送付）

本年の果樹カメムシ類越冬世代成虫の発生推移について取りまとめましたので、防除指導に利用していただくようお知らせします。

記

1. 発生状況：

- 1) 本年のチャバネアオカメムシの越冬成虫数は4頭(県内16地点の合計)で、平成(15.1頭)および昨年(9頭)より少なかった(平成23年度技術情報第16号)。
- 2) チャバネアオカメムシの予察灯およびフェロモントラップへの誘殺は、4月第4半旬頃から確認された。半旬当たり誘殺数は、宇城市松橋のフェロモントラップで平成並、合志市、天草市は平成より少なく推移している(図1～3)。
- 3) チャバネアオカメムシおよびツヤアオカメムシの予察灯およびフェロモントラップによる5月第2半旬～6月第1半旬の累積誘殺数は、宇城市松橋が平成並、その他の地域は平成より少なかった(表1)。
- 4) 環境省が4月に発表した熊本市における平成24年春のヒノキの花粉飛散状況は多かった。このため、6～7月の主な餌であるヒノキ球果の結実量は、平成より多いと予想される。

2. 防除対象作物：果樹類（カンキツ類、ナシ、カキ、モモ、スモモ、ウメ等）

3. 防除上注意すべき事項：

- 1) 越冬調査、予察灯、フェロモントラップ調査から本年の越冬世代成虫密度は、低いと推測される。ただし、果樹カメムシ類の発生量やヒノキの球果量は、地域差が大きいため、園内をよく観察し、発生に注意する。
- 2) 被害が認められた場合は防除を実施するが、薬剤の使用回数、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散(ドリフト)に注意する。

(参 考)

◎果樹カメムシ類の生態について

熊本県における果樹カメムシ類の発生量は、チャバネアオカメムシが最も多く、次いでツヤアオカメムシが多い。

チャバネアオカメムシは、雑木林の落葉下で成虫越冬する。越冬した成虫は、4月下旬頃から活動を開始し、サクラやクワ、モモ、ウメ等の果実を加害する。7月上旬からスギ、ヒノキ等の針葉樹に移動し、産卵する。幼虫は球果上で成長し、成虫となり、8月以降果樹園に飛来する。

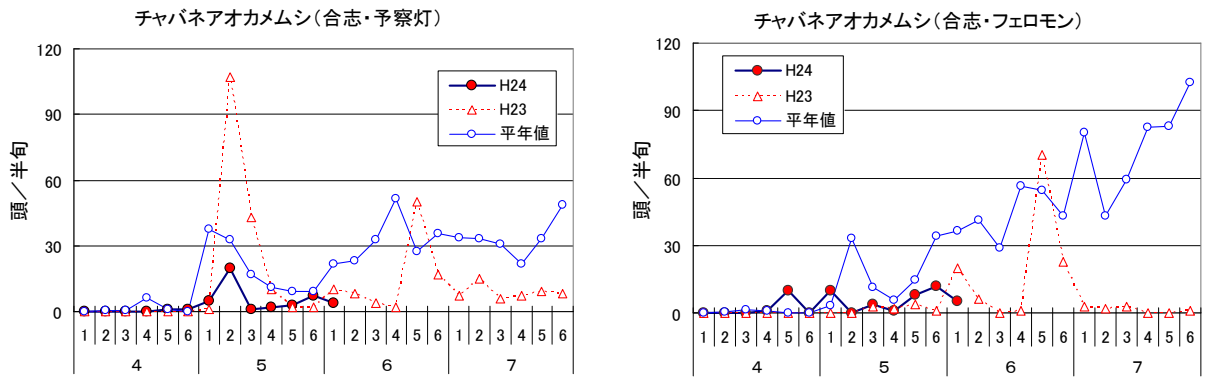


図1 合志市の予察灯(左)及びフェロモントラップ(右)におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移。

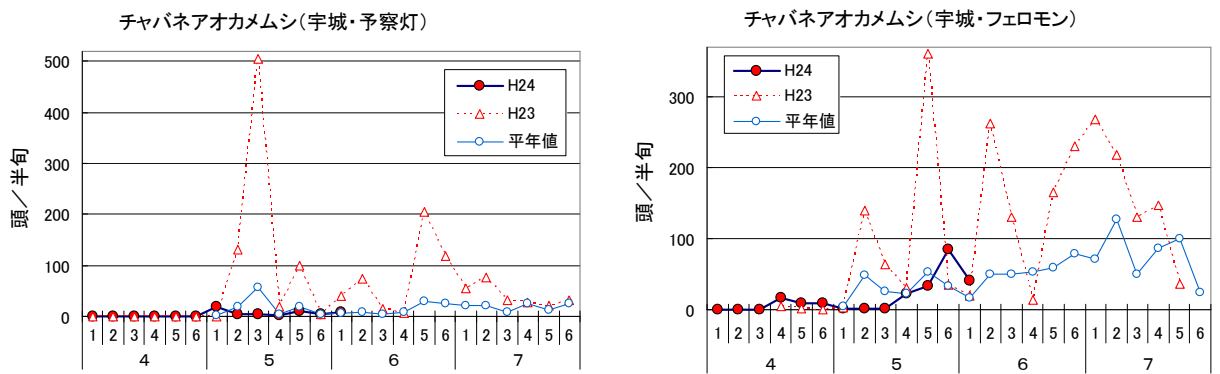


図2 宇城市松橋の予察灯(左)及びフェロモントラップ(右)におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移。

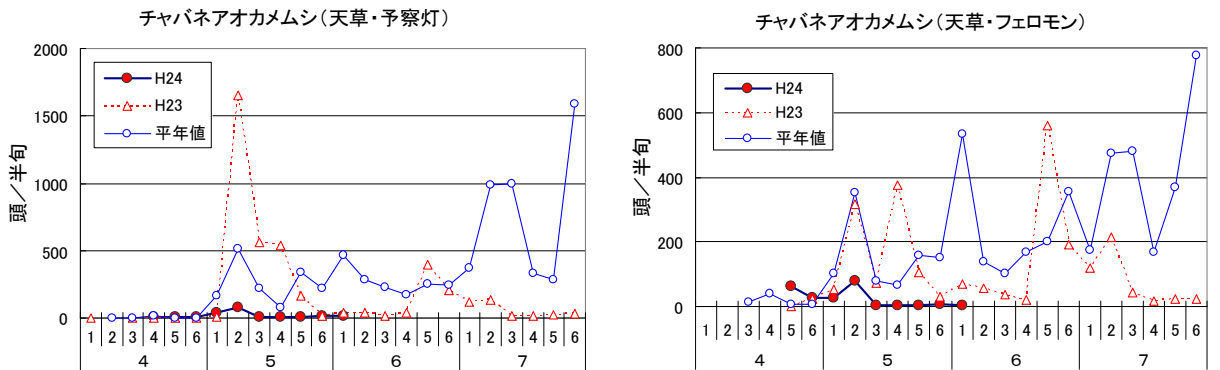


図3 天草市の予察灯(左)及びフェロモントラップ(右)におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移。

表1 各地域におけるカメムシ類の誘殺状況(5月2半旬～6月1半旬)

地域名	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ	
	予察灯	フェロモントラップ	予察灯	フェロモントラップ
合志	37(101)	30(136)	11(110)	0(4)
宇城	33(109)	187(199)	207(220)	102(94)
天草	138(1,840)	96(1,336)	266(1,402)	102(158)
三角	3(7)	—	1(29)	—

単位：頭、()は平年値